講義名	地方財政論				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	三原　裕子				
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ３時限	授業形態			
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

日本は現在、人口減少の局面を迎えており、過疎化を迎える地域、消滅の可能性のある地域、富める地域、そうではない地域と様々です。
それに関連して、地方はそれぞれの財政により地域住民の暮らしに欠かすことのできない公共財やサービスの提供を行っているため、地域間での格差が存在してしまいます。そんな中、地域独自に地域創生を目指そうとしても、地域財政は国からの制約を受けることがあり、非常に複雑なもとで運営されているのが現実です。
本講義では、国からの補助金のあり方や国と地方の政府間の関係のあり方等について、地域住民の動きを考慮に入れながら、地域財政への理解を深めることを目的とします。

到達目標

①経済学の基礎的な知識を身に着け、理論的に物事が判断できるための力を養う。
②地域が抱える諸問題について財政面から分析、評価できるようになるための知識を身につける。

提出課題

その回に関連のある小テストや宿題を課すことがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストや宿題は次回の講義始めに解説を行います。

評価の基準

学期末試験60%、日常点（小テスト、宿題）40%により評価します。

履修にあたっての注意・助言他

講義中の録音／録画／撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。

教科書

. 使用しない.

プリント資料及び参考文献

講義中にレジュメを配布します。
主な参考文献
・佐藤主光『地方財政論入門』新世社、2009
・林宜嗣『財政学　第3版』新世社、2013
・宮澤和俊、焼田党『財政学』新世社、2019
その他参考文献については授業中に適宜紹介します。

授業計画

1. 地方財政とは
2. 地方分権改革と地方財政が抱える諸問題
3. 神戸市の現状を財政面から整理する
4. 地方財政の機能
5. 余剰分析
6. 分権化定理 (1)
7. 分権化定理 (2)
8. 公共サービスの外部性と政府の失敗 (1)
9. 公共サービスの外部性と政府の失敗 (2)
10. 地域間の格差と多様性 (1)
11. 地域間の格差と多様性 (2)
12. ゲーム理論について
13. 課税競争 (1)
14. 課税競争 (2)
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 地方が提供している公共サービスについて調べておく（45分程度）
2. 地方が抱える諸問題について調べてみる（45分程度）
3. 神戸市の財政状況について新聞等で記事を探してみる（45分程度）
4. 地方財政の役割について考えてみる（1時間程度）
5. 需要曲線と供給曲線について復習、あるいは調べておく（1時間程度）
6. 第5回目の講義資料を復習しておく（1時間程度）
7. 地方と国が供給する公共サービスの性質について調べておく（1時間程度）
8. 他府県で利用する地方公共サービスはどのようなものがあるか調べておく（45分程度）
9. 第5回から第8回までの講義資料を復習しておく（1時間程度）
10. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。